

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 10月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103676		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム よってきんさい本浦		
所在地	〒734-0047 広島市南区本浦町2 7番1 8号 電話082-508-2626		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103676-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年9月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

2ユニットのグループホームです。家庭的な環境で過ごして頂けるよう対応しながら、自分でする事は時間がかかっても出来る限り見守りに努めています。散歩による運動や外気浴を継続し、季節を感じて頂いています。近所の方との交流を行いホームを知って頂き、地域の中のグループホームである事を大切にしています。また、24時間体制で看護師を配置し、家庭医の協力を得ながら医療的ケアを必要とされる方も受け入れています。体調にあわせ可能な限りリビングへお連れし、人との関わりがある生活が出来るよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念、5項目の方針を遵守し、理念に沿った行動、初心を大事にし、資質形成を育む取り組みを実践している。利用者を尊重し、自己決定ができる支援を意識しながら日々の関わりに努めている。食事は三食手作りにて提供し、汁物も粉末のだしではなく昆布など素材からだしを抽出し料理していくなど拘りを持ち取り組んでいる。毎週火曜日の夕食に「刺身の日」とするなど食べることが楽しみとなる食の提供を実践している。看取りにも力を入れており、協力医が各ユニットに1名ずつ診ていく体制としており、有事の際は協力、カバーし合いながら利用者を診ていけるようにしている。看護師も常時勤務をし、夜勤も行い医療体制を整え、医療ニーズの高い方への支援など意向に沿った看取りを実現している。

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	美泉開設当初よりの理念を元に、新年度に事業所で目標をたて取り組んでいる。半年で見直しをしている。毎朝、申し送り時に唱和し意識付けしている。	法人理念、5つの方針を朝礼で唱和し、ケア会議などで理念を振り返る機会を設け、理念に沿った行動、初心を大事にし、資質形成を育むよう取り組んでいる。毎年、理念をもとに事業所の年度目標を策定し、今年度は「笑顔で優しく接する」ことを掲げ職員一丸となり取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、順番で理事などの役員を受け、町内の方たちとの交流を図っている。利用者の散歩時には積極的に挨拶を交わしている。	町内会に加入し、理事など役員も担当しながら地域コミュニティへの参画を實踐し、活動を通して事業所と地域の繋がりを深いものとしている。地域での活動を通じた交流や日々の散歩でも気軽に声を掛け合えるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の会合や施設見学に来られた時などに、認知症の方への対応方法や症状の質問、相談があった場合には丁寧にお答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所での活動や利用者の状況を伝え、意見を頂いている。町内会の活動予定や地域の情報を得ている。	コロナ禍にあり感染症対策に細心の注意を払いながら定期的開催している。家族面会を中止していることで家族の参加は控えているが、利用者、民生委員、地域包括支援センターの参加がある。地域包括支援センターからは空き情報の確認など様々に意見交換を行っている。	運営推進会議の議事録を、意見交換において各参加者の発言内容などが詳しく分かるような形で残していくこと、又議事録を家族へ送付するなど共有ができる形のものとし、事業所の取り組みの理解を深め、家族参加に繋がる体制づくりの機会としていくことを期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターより出席して頂き、事業所の日頃の様子を伝え、地域の状況などを聞いている。	市との連絡や確認などは本部が行う形であり、本部と連携しながら共有している。市や地域包括支援センター主催の研修には意欲的に参加をしている。地域包括支援センターが行う町内の徘徊パトロール運動において休憩場所として事業所を提供するなど協力しながら連携し実施している。	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会に参加し学んでいる。日中、玄関は施錠していない。椅子や車椅子に座りっぱなしにしないようにし、言葉による拘束にも気を付けている。身体拘束の委員会を定期的に行い事案の検討をしている。	身体拘束防止委員会を定期的を開催し、個別ケース事例の検討を行う他、法人全体会議での他施設の事例検討報告を参考に話し合いを行っている。3か月毎に勉強会を行い理解を深め、日頃から職員同士でお互いに注意しあえる関係性を築いている。玄関の施錠も日中は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修で学び理解している。職員同士、注意し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修で学んでいる。制度の利用が必要と思われる場合には、施設代表者に報告し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書により説明を行っている。納得頂けるまで質問を受けお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、入居時に説明している。直接、施設代表者に電話される方もある。意見があった場合には、事業所や管理者会議で話し合い改善に努めている。	コロナ禍で面会を中止している状況下において家族へ電話や手紙で意見を聞いている。顔が見れないことへの不安を検討課題として協議し、顔が見れるリモート面会が行えるよう本部に相談し検討を進めている。利用者へは日々の関わりから確認し、誕生日には食いたいものを提供している。	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティング時意見を聞いている。電話で直接提案する場合もある。管理者会議で検討し、意見の反映に努めている。</p>	<p>申し送りやその都度開催するミーティング、日々の業務内において意見を確認している。代表者も頻りに来所することで職員との話や意見を聞く機会も多くある。パート勤務時間を希望や事情に応じて柔軟に対応した事例や、相談の上、他のホームへ異動が行われた例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者会議や研修会、事業所の訪問などで状況把握に努めている。研修への参加は積極的に進めており、勤務時間の調整を行っている。勤務しながら資格取得のための学校への通学も出来る。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の研修を定期的に行っている。外部の研修希望時には、勤務の調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>施設代表者は同業者のネットワークに加入し、訪問研修や勉強会を行っている。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面談時に、困っている事や要望を聞き対応と一緒に検討している。必要に応じて施設利用までの間、何度か訪問し安心して入居できるよう対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>申し込みがあった時より、家族の困りごとや不安を聞き、解決できるよう一緒に考え対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談があった時には、上司やケアマネに報告し必要に応じたサービスが受けられるよう対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃から共に生活していることを念頭に、できる範囲での作業や食事を一緒に行い、家庭生活の延長を心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や毎月の手紙で日頃の様子を伝えている。面会が困難な場合には、電話の取次ぎを行い、関わりが継続できるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの理美容院や病院への付添を行っている。家族との墓参りなど必要時には付き添っている。</p>	<p>アセスメント表にて個人の生活状況や背景などを把握し、個々の繋がりを紐解いている。電話の取次ぎや手紙を出す支援、結婚式に付き添い出席することができた事例や墓参りに年2回付き添っていくことなど本人の思いを汲み取り継続できる支援を実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考えテーブル席の配置をしている。活動時には、お互いが助け合えるよう職員が間に入り声掛けしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や転居時には、介護サマリーを作成しこれまでの生活の様子を伝えている。必要に応じて荷物をまとめたり、家族の相談に乗っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での会話や行動から、利用者の要望等の把握に努めている。言葉で表現できない場合には、表情などからくみ取るよう努め、職員で話し合っている。	利用開始時に生活背景を詳しく聞き取り、その後知り得た情報は順次アセスメントに付け足し個人の情報の把握に努めている。利用者の意向や言動などはケース記録に都度記載することや申し送りで共有している。意向に添い、お好み焼きやピザの宅配を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の施設や病院、家族や関係者より情報を得ながら、本人からも情報の聞き取りを行っている。入居後も会話をしながら情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の情報をもとに、毎日の生活の中で利用者と共に活動することにより現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	センター方式を用いてアセスメントしている。面会時や電話時に日頃の様子を伝えながら意見を伺っている。往診時に医師の意見を伺い、利用者の意見も伺いながら職員で話し合い作成している。	利用者毎に担当者を配置しアセスメントを行い、個人の状態や意向を深く掘り下げている。その他にもケース記録や情報を計画作成者が集約し、できることの継続を視点に介護計画の原案を作成し全員で話し合い決定している。モニタリングを毎月実施し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の生活日誌に、日頃の様子や体調、食事量、水分量、排泄などを記録し情報の共有や介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診や入院時に家族の付添が困難な場合には、職員が付添をしている。入院中の洗濯物などを必要時には届けている。買い物や墓参りの付添をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	散歩や買い物に同行し地域の方との交流が出来るよう支援している。家族や友人の面会は感染対策を取りながらして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前の係りつけ医を希望される場合には継続して頂いている。受診時には付添、日頃の様子を伝えている。事業所の家庭医には、定期的に往診して頂き必要に応じて専門医を紹介受診している。	利用開始前の馴染みのかかりつけ医も往診が可能であれば継続ができ、ユニット毎に協力医が異なり2名いるが、有事の際には協力しカバーし合い診ることができる。都度専門科への受診も行い、受診の際には必ず職員が同行し詳しく説明を行うなど安心して医療を受けられる体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日、日頃の様子を連絡している。状態の変化や何かおかしいと感じた場合にはすぐに連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子を介護要約や口頭で伝えている。病状の経過を医師や看護師より聞きながら、地域支援室とも連絡を取り早期に退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合、利用者や家族の希望があれば、最後まで過ごす事が出来ると説明している。家庭医、職員、看護師と情報を共有しながら、利用者や家族と話し合いながら対応している。	利用開始時に指針にて重度化や看取りに対する考え方を説明し、意向を確認している。直近にも2件の看取りを行っている。看取りの状況となった時に個人の状況に合わせた内容を看護師より指導する勉強会を行い取り組んでいる。家族もできるだけ一緒に過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所にマニュアルがあり、いつでも対応できるよう社内研修で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回の避難訓練を行っている。事業所の近隣に住む職員が緊急時には駆けつける体制を取っている。	年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間想定にて実施している。地域との連携も町内会連絡簿に状況が伝わる体制を整備し、コロナ禍以前は地域の防災訓練参加など地域との関わりを深めている。近隣法人施設からの避難の受け入れなど法人内の協力体制も確立している。	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修でプライバシーや人格に配慮した対応や声掛けをするように学び、職員同士注意している。	社内研修にて人格や個人の尊重、プライバシーに関して理解を深めている。声掛けにも適切な配慮をするように心掛けており、普段から職員間でお互いに注意しあえる関係性を構築している。職員が一方向的に決めつけない、自己決定することの大切さを大事した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定する事の大切さを学んでいる。生活の中で飲みたいもの、したい事、食べたいもの、着たい服など場面で選択しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所の日課は決まっているが、その中で一人ひとりの体調や希望を考慮し過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自宅から持参の洋服を毎日選んできて頂いている。定期的に散髪をし、自分で髭剃りが出来ない場合には介助している。行事には女性にお化粧をすすめている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者それぞれの出来る範囲で、食材の準備や盛り付けをしている。下膳できる利用者が出来ない人の下膳を職員と一緒にしている。	3食共に手作りの食事を提供している。火曜日の夕食は刺身の日とし、お酒も主治医に確認しながら飲める支援を行っている。外食の出前を取ったり、ホットプレートで焼きそばやホットケーキを作るなど様々に行っており、食べることに自由を念頭に置くよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の生活日誌に食事量、水分量を記録し職員全員が把握し不足の無いよう気を付けている。食事量の少ない場合には捕食や高カロリーの飲み物を摂取して頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い必要に応じて仕上げ磨きを行っている。自力困難な場合には介助し、口腔内のチェックをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。病院からオムツ使用で入居された利用者が定期的にトイレに座ることで排泄でき、布パンツにパット使用になっている。夜間はポータブルトイレをベットサイドに設置し誘導している。</p>	<p>トイレでの排泄を基本に掲げ、ケース記録に排泄の状況を個々に記載を行い、排泄パターンを理解しその人に合った排泄の支援の形を作り取り組んでいる。「トイレに行かない、今はない」と言われる傾向の方にも誘導や工夫を繰り返し行うことで、トイレに行き座る習慣がついた事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表で排便状況を把握している。水分摂取や散歩などの運動を心掛け、必要に応じて下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日入浴できるよう準備をし、最低でも週三日は入浴して頂いている。入浴時間は午後からとし、一人ひとりゆっくり入浴して頂いている。利用者に合わせて必要な介助を行っている。</p>	<p>基本、1日置きに入浴ができるように支援している。夏には毎日シャワーを浴びる方もいる。1階にはリフト対応の浴室があり、利用者の状態に合わせて活用している。一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しむ時間を持てるように、湯に浸かる時間や温度なども個々に合わせ対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中は散歩やレクリエーション などの活動で、しっかり身体を 動かしている。食後には午睡時 間を設け一時間程度休んで頂 いている。天気の良い日には 布団を干し、気持ちよく休ん で頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>薬の説明書で副作用等確認し理 解している。臨時薬が処方され たり、変更があった場合には申 送りノートに記録し全職員に 周知し、症状の変化に注意し ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	<p>利用者の得意な事や好まれる 活動などを取り入れた作業、レ クリエーションを行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域のみなさんと協力しな がら出かけられるように支援 している。</p>	<p>毎日、施設の近所を散歩して いる。家族や知人の協力を得 て、墓参りなどに出かけられ ている。</p>	<p>現在、感染症対策の徹底にて 外出の機会は減ったが、以前 は近くの山に花見に行ったり 、ドライブに行き海を見て喜 んだり利用者を楽しめる外 出行事を数多く行っていた。 外に出たい気持ちを理解し、 できるだけ外出が行えるよう に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>家族よりの預り金で買い物時 には支払いをして頂いてい る。金銭出納帳で管理してい る。</p>		

自己評価	外部評価	項目(一階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話がかかってきた時やかけるときには子機を使用し、自室でゆっくり話して頂いている。手紙を希望される場合には、投函など支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>定期的に換気をし、空気の入替えを行い不快なおいがこもらないように気を付けている。夏の強い日差しはカーテンを使用し、エアコンを使用しながら室温の調整を行っている。壁画や花、飾り物で季節感を感じて頂いている。</p>	<p>リビングはゆとりある空間であり、キッチンから利用者の様子が見守れる造りとなっている。立地も住宅団地の高台に面する場所であることで窓からの景色も市内が見渡せる開放的な景観となっている。その景色をソファでゆっくりくつろぎながら眺め過ごせる場として定着している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル、ベンチ椅子を置き、それぞれ好まれる場所で過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用されていたタンスや机を持ち込んで頂いている。写真、置物を飾り利用者の好まれる部屋づくりを心掛けている。</p>	<p>ベッドやエアコン、箆笥が備え付けである。箆笥は使い慣れたものでも持参が可能であり、他にも仏壇や机、書道道具など個人の馴染みの深いものを持参している。利用開始時に本人や家族と相談し配置なども含め部屋づくりを行い、個々に落ち着いて過ごせる環境を実現している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下やトイレ浴室には手すりを設置し、玄関には座って靴が履けるよう椅子を設置している。居室入口には目印の花などを飾り自分の部屋がわかるようにしている。</p>		

V アウトカム項目(一階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	美泉開設当初よりの理念をもとに、新年度に事業所で目標をたて取り組んでいる。半年で見直しをしている。毎朝、申し送り時に唱和し意識付けしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、順番で理事などの役員を受け、町内の方たちとの交流を図っている。利用者の散歩時には積極的に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の会合や施設見学に来られた時などに、認知症の方への対応方法や症状の質問、相談があった場合には丁寧にお答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所での活動や利用者の状況を伝え、意見を頂いている。町内会の活動予定や地域の情報を得ている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議に地域包括より出席して頂き、事業所の日頃の様子を伝え、地域の状況などを聞いている。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会に参加し学んでいる。日中、玄関は施錠していない。椅子や車椅子に座りっぱなしにしないようにし、言葉による拘束にも気を付けている。身体拘束の委員会を定期的に行い事案の検討をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修で学び理解している。職員同士、注意し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修で学んでいる。制度の利用が必要と思われる場合には、施設代表者に報告し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書により説明を行っている。納得頂けるまで質問を受けお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、入居時に説明している。直接、施設代表者に連絡される場合もある。意見があった場合には、事業所や管理者会議で話し合い改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティング時意見を聞いている。電話で直接提案する場合もある。管理者会議で検討し、意見の反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議や研修会、事業所の訪問などで状況把握に努めている。研修への参加は積極的に進めており、勤務時間の調整を行っている。勤務しながら資格取得のための学校へ通学もできる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修を定期的に行っている。外部の研修希望者には、勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設代表者は同業者のネットワークに加入し、訪問研修や勉強会を行っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談時に、困っている事や要望を聞き対応と一緒に検討している。必要に応じて施設利用までの間、何度か訪問し安心して入居できるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>申し込みがあった時より、家族の困りごとや不安を聞き、解決できるよう一緒に考え対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談があった時には、上司やケアマネに報告し必要に応じたサービスが受けられるよう対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃から共に生活していることを念頭に、できる範囲での作業や食事を一緒に行い、家庭生活の延長を心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や毎月の手紙で日頃の様子を伝えている。面会が困難な場合には、電話の取次ぎを行い、関わりが継続できるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの理美容院や病院への付添を行っている。家族との墓参りなど必要な時には付き添っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考えテーブル席の配置をしている。活動時にはお互いが助け合えるよう職員が間に入り声掛けしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や転居時には、介護サマリーを作成しこれまでの生活の様子を伝えている。必要に応じて荷物をまとめたり、家族の相談に乗っている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での会話や行動から、利用者の要望等の把握に努めている。言葉で表現できない場合には、表情などからくみ取るよう努め、職員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の施設や病院、家族や関係者より情報を得ながら、本人からも情報の聞き取りを行っている。入居後も会話をしながら情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の情報をもとに、毎日の生活の中で利用者と共に活動することにより現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式を用いてアセスメントしている。面会時や電話時に日頃の様子を伝えながら意見を伺っている。往診時に医師の意見を伺い、利用者の意見も伺いながら職員で話し合い作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々の生活日誌に、日頃の様子や体調、食事量、水分量、排泄などを記録し情報の共有や介護計画に繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>受診や入院時に家族の付添が困難な場合には、職員が付添をしている。入院中の洗濯物などを必要時には届けている。買い物や墓参りの付添をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>散歩や買い物に同行し地域の方との交流が出来るよう支援している。家族や友人の面会は感染対策を取りながらして頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の係りつけ医を希望される場合には継続して頂いている。受診時には付き添い、日頃の様子を伝えている。事業所の家庭医には、定期的に往診して頂き必要に応じて専門医を紹介受診している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日、日頃の様子を連絡している。状態の変化や何かおかしいと感じた場合にはすぐに連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子を介護要約や口頭で伝えている。病状の経過を医師や看護師より聞きながら、地域支援室とも連絡を取り早期に退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合、利用者と家族の希望があれば、最後まで過ごすことが出来ると説明している。家庭医、職員、看護師と情報を共有しながら、利用者や家族と話し合いながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所にマニュアルがあり、いつでも対応できるよう社内研修で学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回の避難訓練を行っている。事業所の近隣に住む職員が緊急時には駆けつける体制を取っている。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修でプライバシーや人格に配慮した対応や声掛けをするよう学び、職員同士注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定する事の大切さを学んでいる。生活の中で飲みたいもの、したい事、食べたいもの、着たい服など場面で選択しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所の日課は決まっているが、その中で一人ひとりの体調や希望を考慮し過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自宅から持参の洋服を毎日選んできて頂いている。定期的に散髪をし、自分で髭剃りが出来ない場合には介助している。行事には女性にお化粧品を進めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者それぞれの出来る範囲で、食材の準備や盛り付けをしている。下膳できる利用者ができない人の下膳を職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の生活日誌に食事量、水分量を記録し職員全員が把握し不足の無いよう気を付けている。食事量の少ない場合には捕食や高カロリーの飲み物を摂取して頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い必要に応じて仕上げ磨きを行っている。自力困難な場合には介助し、口腔内のチェックをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。病院からオムツ使用で入居された利用者が定期的にトイレに座ることで排泄でき、布パンツにパット使用になっている。夜間はポータブルトイレをベットサイドに設置し誘導している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表で排便状況を把握している。水分摂取や散歩などの運動を心掛け、必要に応じて下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日入浴できるよう準備をし、最低でも週三日は入浴して頂いている。入浴時間は午後からとし、一人ひとりゆっくり入浴して頂いている。利用者に合わせて必要な介助を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中は散歩やレクリエーション などの活動で、しっかり身体を 動かしている。食後には午睡時 間を設け一時間程度休んで頂 いている。天気の良い日には 布団を干し、気持ちよく休ん で頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	薬の説明書で副作用等確認し理 解している。臨時薬が処方され たり、変更があった場合には申 送りノートに記録し全職員に 周知し、症状の変化に注意し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	利用者の得意な事や好まれる 活動などを取り入れた作業、レ クリエーションを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	毎日、施設の近所を散歩して いる。家族や知人の協力を得 て、墓参りなどに出かけられ ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	家族よりの預り金で買い物時 には支払いをして頂いている。 金銭出納帳で管理している。		

自己評価	外部評価	項目(二階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がかかってきた時やかけるときには子機を使用し、自室でゆっくり話して頂いている。手紙を希望される場合には、投函など支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に換気をし、空気の入替えを行い不快なおいがこもらないように気を付けている。夏の強い日差しはカーテンを使用し、エアコンを使用しながら室温の調整を行っている。壁画や花、飾り物で季節感を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブル、ベンチ椅子を置き、それぞれ好まれる場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用されていたタンスや机を持ち込んで頂いている。写真、置物を飾り利用者の好まれる部屋づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、玄関には座って靴が履けるよう椅子を設置している。居室入口には目印の花などを飾り自分の部屋がわかるようにしている。		

V アウトカム項目(二階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい本浦

作成日 令和4年11月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の見直し	運営推進会議録の内容を詳細にする	会議録書式の検討	6か月以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。